

# 羞恥心も罪悪感も薄れ

## 同窓会不倫・中高年の「初恋」が実るとき

女性が主役の新しい不倫だが高齢者にとっては心の空洞を埋める「疑似不倫」に

「一生の恋人に」と10年以上も

「同窓会のお知らせが届くと、いつも気になるのは初恋の加藤君が来るかどうか。年齢を重ねても、学生時代のかつこよさは残っている。今年彼に逢えたら、勇気を出してあのときの想いを伝えてみたい」――。

専業主婦の安井美代子さん(仮名、46歳)はこういつて同窓会への「決意」を表明する。

いま、こうした同窓会をきっかけとした人妻の不倫が増えている。そのきっかけとなったのが今春、テレビ朝日系列で放送されたドラマ『同窓会 ラブ・アゲイン症候群』だが、各テレビ局のドラマ枠が視聴率低迷に悩むなか、平均視聴率14・5%、最終話の15分拡大版では17・8%という高視聴率を記録した。

ドラマの内容は、タイトルで全てがわかってしまうようなありきたりの不倫もの。リストラされた夫を支える良妻賢母の主人公が、30年ぶりに「同窓会」で出会った同級生と恋に落ちるといふものだ。だが、この「同窓会」というセンチメンタリズムに覆われた「不倫」という卑猥さが40代、50代の女性たちの支持を集め、高視聴率につながった。

この背景には、時代が以前よりも既婚者の恋愛に寛容になったことに加え、以前のような男性主導の不倫ではなく、女性が主役になる新しい不倫が増えたこともあるようだ。

その流れを裏付けるように、大手ポータルサイトmsnの人気コンテンツ「恋のビタミン」が行った不倫に関するアンケートでは、不倫経験者は全体の36%、男女比では女性が

男性を5割上回っていた。

女性の恋愛事情に詳しいライター、佐々木真理氏がこう解説する。

「アラフォー(40歳前後)以降の女性は子育ても一段落して、自分が女だと再認識する時期。そこに『出会いの場』としての同窓会が開かれる。少年少女に戻って共通の話題もあるからアプローチもしやすく、誰でも同窓会不倫に陥りやすいといえる」

佐々木氏の運営するブログでも、同窓会不倫をテーマにしたコラムを掲載すると「アクセス数が跳ね上がる」(佐々木氏)というほどだが、現実にはさまざまなケースがある。

ある温泉宿で女将を務める北川洋子さん(仮名、52歳)も同窓会がきっかけで不倫を始めたが、最初は相手の男性にまったく興味がなかった。「相手の既婚男性から10年以上、

「一生の恋人になってほしい」とアプローチされていたのです。50歳を過ぎ、そこまでいつてくれるなら……と関係を持ちました」(洋子さん)

洋子さんもちろん結婚しているが、結婚生活にはロマンがなかった。そんな洋子さんを不倫に走らせたのは、相手の男性が毎日電話やメールをしてアピールし続けたこと、毎年開催される同窓会に参加していたことが大きかったようだ。

避妊をしなかった男性に激怒

また、会社員の田中誠さん(仮名、48歳)には、四つ年下の妻と大学生になる子どもが2人いる。

子どもも手を離れ、仕事も落ち着いてきた今年の夏、妻のすすめもあり例年断っていた同窓会に参加した。野球部のエースだった田中さんは



不倫のハードルは下がったが

当時から人気者。初参加ということもあって終始クラスメイトだった女性たちに囲まれ、楽しい同窓会になった。そして何人かとメールのアドレスを交換してその日は何事もなく別れた。ところが「翌日にはアドレスを交換した女性たちから『メール攻撃』が始まった。『田中さん』という。『昨日は楽しかった』『覚えてくれ

しかった』といった彼女たちのメールに、「こちらこそ」と社交辞令で返信するが、メールは収まらない。

「また、食事に行きたいわ」「飲みに連れて行って」と積極的なメールが送られてくる。メールに含まれる「郷愁以上」の感情を感じて田中さんは頭を抱えた。お互いに家庭も立場もある。しかし、級友をむげにもできず「みんなで食事でも」と遠まわしに断ったが「2人じゃダメなの?」と即、返信が来たという。

不倫に対するハードルは、確実に女性たちの方が低くなっているが、一方でこんな失敗談もある。同窓会をきっかけに意中の女性と関係を持

ったある男性(49歳)がいう。

「彼女とセックスするとき、『年齢的にもう大丈夫』と思って避妊をしなかった。ところが彼女はそのことに激怒して、それっきり。『女性』であることを常に尊重していなければ、彼女たちは満足しない」

気軽に「昔は好きだった」と…

同窓会での邂逅がきっかけで交際や不倫に進展するケースは、中年男女だけではない。高齢者の恋愛事情を知る結婚コンサルタントがいう。

「60代後半〜70代の熟年でも、同窓会を機にいわゆる『茶飲み友達』的交際を始めるケースも増えている。女性は夫に先立たれて未亡人になっている場合も多い。彼女たちは『心

の空洞』を昔の同級生で埋めようと思っている。よほどの『好き者』(性的欲求が強い者でない限り)は、肉体的関係まで行くことは少ない」

ただ羞恥心は薄れ、抵抗感も少なくなってきたから、女性も気軽に「昔は好きだった」と口にする。男も悪い気はせず、「俺もだ」などと答え、手を握ったり、見つめ合ったりする。

定年退職して交際範囲も狭くなった男たちも、寂しさを昔の同級生との束の間の『疑似恋愛』で埋めようとする。40〜50歳代までなら本物の『同窓会不倫』に発展するが、60〜70歳代の場合には、『疑似不倫』で終わる。彼らにとって同窓会でのひとときは、あくまで『心の空洞』を埋めてくれるものなのである。

一刀両断 読痛快

読者から「よくぞ書いてくれた」と共感の声殺到

## 日本人が「勇気と自信を持つ本」 高山正之

朝日新聞の報道を正せば明るくなる

B6変形判 定価本体1000円+税

(全33項目の中から抜粋)

中国や韓国を弁護する朝日新聞の「悪趣味報道」

馬鹿大使と朝日記者がアジアの歴史を改竄した 住基ネット反対を唱える朝日新聞の左翼学者担ぎ

発行 テーミス